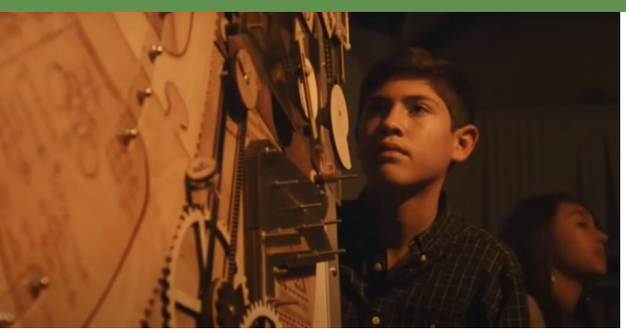
NPO法人 子どものいのちを守る会 https://empowering-children.tokyo/

Protect Children's Life

Empowering Children

9/ 2022
令和４年９月号
2022 September



人生において最も喜びを与えるものは以前には
なかった何かを創造することです。

（Most Likely Succeed の 1 シーン）

教育ドキュメンタリー映画 “Most Likely Succeed”（制作 2016 年米国）の舞台は米国カリフォルニア州の「High Tech High（以下 HTH）」という公立小中高校です。

この学校の生徒達は低所得層の家庭の子が 5 割を占めます。入試はなく抽選で入学者が決まり授業料は全て公金で賄われます。テスト対策も定まったカリキュラムもなく、優秀な子どもたちを集めたわけでもないのに HTH の生徒の成績は同州の標準テストの平均値よりも高く、大学への進学率も 98% に上ります。これは何故なのでしょうか。HTH には授業というものがありません。チャイムも宿題もテストも通信簿も教科書もありません。生徒たちは毎学期、「西洋美術史」「古代文明」といった興味のあるテーマを決めチームに分かれて学期末の発表会に向け調査や作成に取り組みます。発表会というプロジェクトに参加することで批評的思考力、探究心、協調性、議論力、コミュニケーション力、リーダーシップ、克己心などが身についていくというのです。これらの能力は AI やロボットで代替し難い能力とされます。このような手法は「PBL（Project Based Learning　課題解決型学習と訳される）」と呼ばれています。

先生が一方的に情報を伝達する従来の「講義型学習」ではほとんどのことを忘れてしまいます。「PBL において生徒たちはやっていることを楽しみ、早いスピードで学んでいく。先生に多くの問いかけをして、知識を深める。プロジェクトに参加し、失敗も含めた実体験の中から得た情報ならば忘れない」と同映画のプロデューサー、T・ディンタースミス氏は語ります。
「PBL 究極の目的は学び方を学ぶことにあり生涯学ぶ者を輩出することだ」
カリフォルニア州では現在、周辺 12 校で PBL を導入しているとのことです。

日本の教育事情はどうなのでしょうか。私は毎年教科書を眺めることにしていますが、レイアウトや表現は洗練されてはいるものの、内容そのものは昭和時代と大きく変わらないように思えます。おそらく今、良い学校と評価されているところでは教科書以外の教材が重視されていることでしょう。過去 30 年で約 30% の職種が消えてしまっているという調査報告があります。さらに今後 10 年で現在の職種の半分が消えるという報告もあります。今後急速に AI やロボットに労働の大半が奪われようとしている状況で、何十年もほとんど変わらない教材がいまだ文科省のお墨付きを得て生き残っています。このことと日本経済の長期停滞はかなり関係があると私は考えます。しかし明るい兆しもあります。PBL 等の手法は国内でもかなり以前から試行する学校法人があります。「オルタナティブ教育」という言葉も耳にする機会が増えました。思考力を問うような入試問題も増えてきました。例の感染症のせいで無期限延期になっているきのくに子どもの村学園への訪問も近いうちに実現したいなと思っています。

きのくに子どもの村学園（和歌山）

明石大橋

NPO法人
子どものいのちを守る会
〒162-0805
東京都新宿区矢来町 123　矢来ビル 3F　Tel. 03-5227-1877
お問い合わせ
kdm.mamorukai@gmail.com